

### “光学の町”板橋で60年の歴史を刻む実力派光学機器メーカー

偏光板・波長板、および歪検査器などの光学製品を自社ブランドとして展開。小ロット・多品  
種な製造を武器に、常にお客様のワンオーダーに寄り添い日々製品の研究開発を進めておら  
れる株式会社ルケオの吉村社長および飯塚次長にお話を伺いました。

#### 自社の研究開発によって生まれた 偏光板・波長板、歪検査器

御社の歩みをお聞かせ下さい。

(吉村社長)

1966年の9月に創業し60期を迎えます。60年という節目  
ですので、もう60年頑張ることで120年になります。100年  
以上続けていける会社を目指したい、というのが今の私の気持  
ちです。

祖父が創業し、私で3代目になります。創業当初は偏光板<sup>1</sup>  
を中心に製造していました。当時は一眼レフカメラの先に装着  
するフィルターの偏光板を製造しており、国内および海外にも  
販売していたと聞いています。しかし、為替の影響や各国で量  
産体制が築かれたことによる価格競争への変化により、このま  
までは利益率に苦むのではと祖父は考えました。そこで、偏  
光板は顕微鏡にも使われていますので、顕微鏡メーカーに採用  
してもらえるような高性能な偏光板の研究開発を始めました。  
その開発が功を奏し、実際に顕微鏡メーカーに採用されたこと  
で、その後は顕微鏡用の偏光板に特化した専門メーカーとして  
業態を変化させていきました。また、偏光板を製造する過程で  
波長板<sup>2</sup>の開発も進み、次第に製品の性能がお客様に認められ  
てきたことから、自社ブランドとして製品ラインナップを増や  
してきた歴史があります。勿論、お客様から「こんなものを  
作って欲しい」と言われたものを一個から作るという体制は変  
えていないですけどね。この偏光板・波長板の製造が弊社の1  
つ目の柱となります。



(左) 吉村社長と(右) 飯塚次長

《注釈》

- 1 偏光板とは…太陽光などのあらゆる方向に振動する光の中から、特定の方向に振動する光だけを選んで通過させる光学部品。光の反  
射を抑えたり、コントラストを向上させたりする効果がある。
- 2 波長板とは…偏光の直交する偏光成分の位相をずらすことで偏光の状態を変化させる光学部品。
- 3 板橋製品技術大賞とは…板橋区内の中小企業による優れた新商品・新技術を区が表彰することにより、区内の産業振興を図っている。  
当社は平成29年 板橋製品技術賞 審査委員長賞を受賞、直近では令和3年に最優秀賞を受賞。令和5年は優  
秀賞を受賞するなど板橋区のトップメーカーとして貢献。
- 4 歪検査器とは…ガラスやプラスチック製品の内部に加わった力の状態を「見える化」して、製品の品質を管理する機械。目視タイプ  
(ストレインアイ) や、全自動タイプ(フルオートストレインアイ) などのラインナップがある。

以前、御社の歪検査器が「板橋製品技術大賞<sup>3</sup>」にて

表彰されていましたね。



(吉村社長)

偏光板・波長板の特性を  
生かして歪検査器<sup>4</sup>も製造し  
ています。歪検査器はガラ  
スやプラスチックの歪(ひ  
ずみ)を検査する装置で、  
研究開発を重ねて自社ブラ  
ンド品として製品化し、弊  
社の2つ目の柱となってい  
ます。偏光板・波長板と歪検査器は継続して性能や品質をブラ  
ッシュアップさせながら製造しています。

さらに、お客様からの頼まれごとの中で光学ユニット・セン  
サーの研究開発もするようになりました。これが3つ目の柱に  
なります。ユニットやセンサーに使われるレンズも弊社で開発  
したものを使用しています。今までそこに使われるレンズは市  
販品の一般的なカメラ用のレンズなどでした。しかしそれでは  
調整が困難であったり、多機能だけれどもその一部の機能しか  
使わず無駄が出てしまったりと悩みがありました。そこで弊社  
では、そのお客様が使用している機械専用の、お客様が見たい  
ものだけがはっきりと見えるような高性能且つ値段の抑えられ  
たレンズというものを開発・設計しております。

#### 伝統的な少数精鋭の強さ

吉村社長から、また飯塚次長からみた御社の強みは

どのようなところでしょうか。

(吉村社長)

弊社では、祖父が会社を立ち上げたときから、従業員の人数  
をあまり増やさないという方針があります。40人以下で価値  
の高い仕事をしていく集団、そういう会社をつくっていこうと  
いう家訓のようなものが代々引き継がれていて、今でもそれを  
守っています。

(飯塚次長)

今40人で、という話がありましたが、おかげで弊社はとて  
も小回りが利くように感じております。あくまで私の印象です  
が、大きい企業様ですとそれぞれの役割が決まっているイメージ  
ですが、弊社は一人の従業員が色々な業務に携わる機会が  
あります。そのため他業務への理解度が高まりますし、伝達事  
項も円滑に伝わります。お客様から少し難しい宿題を頂いた時  
など、各部門のリーダーが迅速に集まって意見をまとめ、ス  
ピード感良く社長へ報告し承認を得ることが出来ます。このよ  
うに営業と現場(工場)の距離が近いことや、社長へすぐに相  
談できる環境は弊社の大きな強みだと思っています。

ジョブローテーションは定期的に行っているのですか。

(吉村社長・飯塚次長)

不定期に行っていますね。他部署を知ると困りごとの対応や  
解決が早くなるのでは、と思っています。例えば、営業の立場  
と製造する現場だと考え方が全然違いますから。営業はお客様  
に寄り添った考え方であったり、現場(工場)だと会社の改善  
や効率を考えがちだったりします。両方の立場を知ること  
もしかり、仕事の内容をお互い理解しながら進むことが大切だ  
と思います。また、事務所の引っ越しをきっかけに本社の3階  
では営業と総務・経理と生産管理がワンフロアで業務を行って  
います。特に営業と生産管理が近くに居ることで、お客様の要  
望と工場の事情をすぐに話し合える状態になっていて、そうい  
う面でも小回りが利いていると言えますね。

#### スーパーニッチな“ものづくり”と 先駆的な取り組み

御社の3本の柱について今後の展望をお聞かせ下さい。

(吉村社長)

3本の柱はバランス良く伸ばしていく方針です。今後も、偏  
光板・波長板は更に性能の良いものを安定して作る事が出来  
るよう開発していく。それが成功すれば歪検査器も性能の良い  
ものができると思います。全て共通する光学の分野ですから。  
また、性能は同じでも製造に費やす時間を半分にする事を目  
標にしています。飯塚さんに頑張っていただき、社内のDX化  
や指示系統の効率化を進め、テレワークで業務を行っても殆ど  
問題ない仕組みをつくってくれました。

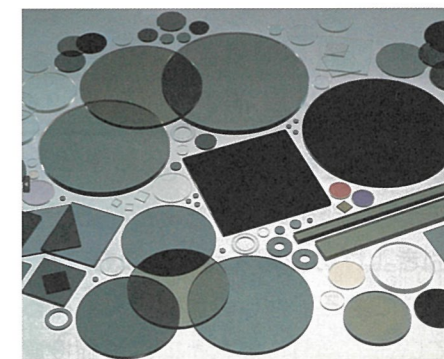
弊社の3本の柱はどれもスーパーニッチですので、我々が  
思っている以上にお客様は弊社の製品を大事にして下さって  
います。ですので、それぞれの製品に対ししっかりと誇りを持っ  
て向き合っていかなければいけないと改めて感じています。  
“ものづくり”をブラッシュアップしていくと同時に、フレキ  
シブルに仕事ができるようなシステムを確立して更に発展して  
いけたらと思います。

少数精鋭で、その素晴らしい技術を伝承していく為には

ご苦労があるのでは。

(吉村社長・飯塚次長)

それは、昔からの課題ですね。社員同士でなるべく丁寧に教  
え合うようにしています。元来の強みである手作業の技術を磨  
きつつ今はデジタルの力を借りて出来ないかというところを考  
えながら、社員みんなで意見を出し合っています。丁度、「ル  
ケオの教科書」づくりという新規プロジェクトを行っているた  
ころです。



採用については、  
新卒採用にて一年に  
一人程度採用してい  
ます。積極的な方は  
インターンシップで  
弊社を選んでくれる  
ので、実際に来て魅  
力を感じてもらって  
います。インターン  
シップを通じて、弊  
社の社風やどんな人

がいるか等を知って頂き、入社時にはそれらを分かった上で弊  
社を選んで来てくれますので、互いのミスマッチが少ないよう  
に感じています。

#### 働きやすい職場づくりと ルケオの魅力

訪問する度に、御社の社員様の温かさを感じるのですが、

何か秘訣があるのでしょうか。

(吉村社長)

そう言って頂けるのはなんだか嬉しいですね。僕は別の会社  
で経験を積んだ後、ここに入社したのですが、僕が入った頃か  
らルケオの社員は皆さんすごく真面目だなという第一印象でし  
た。最近僕は2階に居ることが多いのですが、3階から笑い声  
が聞こえたり和やかな雰囲気伝わって来たりします。勿論真  
剣な話をしていることが多いのですが、楽しそうにしていること  
が分ると、社員同士で働きやすい職場づくりをしてしてくれて  
いるのだなと感じます。

(飯塚次長)

皆、基本的に人を思いやって仕事をしていますので、何か  
あったら助け合うことが多いですね。急にお休みしなければい  
けない時も、助け合いだからねという考え方が皆さんの中にあ  
るのでは。インターンシップ生にはよく家族感がありますねと  
言われます。

週休三日制の実現が進んでいるのも

そのような側面からでしょうか。

(飯塚次長)

そうですね。技術開発部や営業事務は実際テレワークでも問  
題なく業務を行っています。週休三日制もコロナ流行の後押し  
もあってスムーズに進みました。月に2日間程、有給休暇とは  
別に土日祝日以外で休暇が取得できています。

テレワーク制度があると、

柔軟性がありとても素敵な職場環境ですね。

(飯塚次長)

そうですね。さらに弊社では有給休暇が1時間単位で取得で  
きます。お子さんが熱を出して帰らなければいけないこともある  
お母さん世代には助かる制度ですね。また、皆が「早く帰り  
ましょう」と率先して協力してくれます。効率良く仕事する  
ということは皆、頭にあるので、やればやるほど改善点がでて  
きますね。出てきた課題は社員同士で都度、改善に向けて話し  
合っています。

(インタビュー：板橋法人営業部 青山)